

読者の日常生活におけるハラル

金子奈央

1. はじめに

本稿は、『カラム』誌に掲載された「千一問」(1001 masalah) のうち、1950年から1960年の10年間に焦点をあて、この中で取り上げられたハラル(Halal)に関連する質問に着目し、マレー・ムスリムの人々が持っていた日常的なハラルに関わる疑問や問題意識について整理する。

ハラルとは、イスラム法における「合法なもの」、「許されるもの」を意味し[多和田 2012:71]、イスラム法で「合法でないもの」や「禁止されるもの」をハラムという。今日、食品のハラル認証が大きな注目をあびるようになり、ハラルはムスリムが食べることができる食品と結び付けて考えられることが多いが、イスラム法によって許可されたものごとや行動などを指す言葉であり、ムスリムの価値判断にとって重要な基準となっているものである。したがって、対象となることがらや行動がハラルではない、つまりハラムであると判断された場合、ムスリムがそれらの行為を行うことは禁止されるということになる。

ものごとや行動におけるハラル／ハラムを決められるのは神のみであることはクルアーンにも書かれてあり、『カラム』の「千一問」に寄せられた質問に対する回答においても、それは確認されている。

ハラムがハラルとなり、ハラルがハラムとなる

[Qalam 1958. 3: 38]

【質問】

神がハラムと定めたものをハラルにしたり、神がハラルと定めたものをハラムにしたりする権限が人々にはあるか。

【答え】

ない。そのような権限はない。なぜなら、それを決められるのは神のみであるから。もし我々が適していないと思ったり好きでないとしても、それらをハラムにし

てよいということはない。

『カラム』誌の読者であったマレー・ムスリム社会の人々から「千一問」に寄せられた様々な相談を通して、彼らが当時、どのような物ごとや行為に対するハラル／ハラムに関心を持っていたのか、「お金」、「文化」、「飲食」、「イバーダート¹⁾(断食・礼拝)」の4点から整理する。

2. お金を得る

宝くじの賞金を正しいものにする方法

[Qalam 1951. 5:37]

【質問】

宝くじで当たった賞金をハラルなものにするにはどうしたらよいか。

【答え】

ハラムなものはハラムでしかなく、それをハラルなものにすることが可能な理由や口実はない。ただし、食べ物また薬に限っては、それを摂取せざるを得ない非常事態については例外とする。

銀行預金で得た利子

[Qalam 1951. 12:40]

【質問】

SEA銀行への預金に1リンギットにつき3%の利子を得たら、このお金はハラルかハラムか

【答え】

ハラム。利子は禁止されている。

利子を課すこと

[Qalam 1952. 11:38]

【質問】

お金を貸して利子を取ることはハラルかハラムか。もしハラムだとしたら、それをハラルにする方法はあるか。

1) イバーダート(ibadat)は、信仰を具体的に表明する信者の行為のうち神への奉仕にかかわるものを指す。そこに含まれるのは信仰告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼である。

【答え】

「花を食べる」「花を摘む」という言葉によって我々がより明確に理解している「利子をとる」行為はハラムである。花つまり利子はイスラムでは禁止されている。禁止されていることに対して回避する口実や抜け道を探すことはできないというのは信念を持つ人々にとっては明白なことである。口実または抜け道というのは、自らを偽ること、つまり自らを貶めることであり、神によって定められた決まりを破ることである。

ギャンブルや豚の売買で得たお金

【Qalam 1953. 3:7】

【質問】

「ギャンブルや豚の売却で得られたお金はハラルである、なぜならお金自体は潔白なものであるからだ。ハラムなのは豚を売ったりギャンブルをしたりする行いである」と判断する人々がいる。このような判断は正しいか。

【答え】

そのような理解（ギャンブルや豚を売るという行いそのものはハラムであるが、それから得られたお金自体には罪はないため、お金はハラル）は、イスラムが定める「ハラム」「ハラル」という決まりを破壊する危険性が大きい。反逆や災いは、ギャンブルや豚をハラムとするイスラムを信仰する国々では起こらないであろう。なぜなら、木を先に伐採すれば果実は確実に実らないからだ。我々イスラム共同体が、ギャンブルや豚、またはそれらによってつくられたものや、それらによって得た利益を持たない国や社会をつくることができることを願う。（中略）(1)利子、ギャンブル、宝くじといった、自らの労力を使うことなく努力もせずに得たもの、(2)ギャンブル、詐欺、嘘といった行為によって得たもの、(3)豚、アルコール、アヘンといった健康を害するものから得られたもの、これらの3つに含まれるものは、イスラムの教えによってハラムとされ、認められていないものである。

生計を立てるための職業の選択

【Qalam 1951. 12:41】

【質問】

生活費を求めるムスリムがヨーロッパ人の靴を磨く仕事をすることはどう判断されるか。

【答え】

（その仕事をする）必要がある。正しい方法で生計を立てること（正しい方法とは、精力的に、努力して、一生懸命稼ぐこと）は必要であるし、むしろ、それは尊いことである。卑しいとされているのは、盗む、嘘をつく、暴力をふるうことであり、そして他人の権利を奪うことである。

3. 文化

映画館を立てることによる影響は

【Qalam 1951.9:39】

【質問】

映画館を建てることは罪になるか。その映画館で上映されている映画は一般的なものであるが、そこから受ける影響はハラルかハラムか。

【答え】

映画館を建てることは、一般的な家屋を建てるのと同様に禁止されることではない。（上映される映画から受ける影響が）ハラルかハラムかについては、上映される映画のジャンルによる。

ジョゲット・モダン²⁾①

【Qalam 1953. 4:10】

【質問】

男性と入り混じってジョゲット・モダンを踊る女性たちは、イスラムの観点からいかがなものか。また、なぜ行政の側から注意がないのか。

【答え】

間違いなくハラムである。ジョゲット・モダンとは、我々が生活する社会において、既に社会の混乱やあらゆる災いの原因となっている。まだ学齢期である我々の子どもまでこの災いから逃れられなくなっている。行政が注意を払っていないことについては、あなたが意味するところの行政が宗教局であるとしたら、彼らには禁止したりやめさせたりする権限がなく、せいぜいできるのは忠告ぐらいである。もし、あなたが政府を想定しているのだとしたら、現在の政府はイスラム法とは異なる独自の法を持っている。

ジョゲット・モダン②

【Qalam 1952. 1:37】

【質問】

妻がジョゲット・モダンを踊り、夫がそのチケットの売り子をしていた場合、これはどのような判断になるのか

【答え】

ジョゲットは、イスラムの教えに反するものとみなされ、禁止されている。従って、妻はイスラムの教えに背くような仕事をしていることになり、夫は（ハラルともハラムとも言えない）「疑わしい」チケットを売っていることになる。

2) ボルトガル起源の軽快なリズムのマレーダンス、男女で踊る

4. 食べる／飲む

イスラムの知識が不足している人が屠畜した家畜を食べること [Qalam 1952. 1:37]

【質問】

イスラムの教えの分別がないマレー人が村にたくさんいる。彼らが屠畜したものを食べてもよいか（彼らが屠畜した動物を食べることはハラルか）。

【答え】

屠畜する資格は、神の名の下にあり、鋭利なナイフで（家畜の）頸動脈を切断する。もし、このように実施された屠畜であればハラルである。

猟銃を使って狩猟した鳥を食べること

[Qalam 1952. 2:31]

【質問】

現在、猟銃で鳥を撃ち落とす人が多すぎる。もし、それらの鳥が（撃たれた後）生きている間に屠畜されたら、それはどのような判断になるか。

【答え】

撃ち落とされた鳥が生きている間に屠畜されたのであればハラルであり、食用として食べることができる。銃弾を鋭利なものとし、撃つ際に「神の御名において (Bismillah)」と発すればハラルであり、（撃って屠畜した）鳥を食べることができるという意見を持つウマーもいる。

アルコールはなぜ飲んではいけないのか

[Qalam 1952. 3:39]

【質問】

なぜ、アルコールはハラルとされる原材料から製造されているにもかかわらずハラムなのか。

【答え】

アルコールは人を酔わせるのでハラムとされている。人は酔うと人としての知性や思考力を失い、人としての品性を持ったものから、動物と同様のふるまいをするものへと変貌する。知性や思考力を失ったとき、見境がなくなり、悪い行いをしてしまうことがある。アルコールは悪の要因となってしまうということが（ハラムとされる）理由である。アルコールがハラルとされる食品からつくられているというのは本当だが、それ（ハラルな原材料）によってつくられたものは変化している。したがって、（変化後のアルコールについては）ハラムとなる。

薬に含まれるアルコール成分

[Qalam 1952. 11:39]

【質問】

ある病気を治療するための薬にアルコールを含んでいる。木の根や葉を原料として作られる薬を、腐敗させず、何年でも保存できるように（アルコールが）混ぜている。これにはどのような判断がなされるか。

【答え】

アルコールのように人を酔わせるものを薬の中に含めるときは、正しい知識に基づいた方法で混ぜる必要がある。憶測、推測は用いてはならない。（アルコールのように）ハラムでありながらも服用が認められるのは、病気が重篤な状態に達したときか、定められたルールに基づき、目的をもって服用される場合である。従って、ウマーの理解に従ってアルコールを服用する必要があり、この服用がイスラムに基づき禁止されているものでなければ、アルコールの服用が認められる。薬剤師が調剤する場合は、誤りに対して責任を負わなければならない。

コカ・コーラとペプシ・コーラの原料

[Qalam 1952. 12:19]

【質問】

コカ・コーラとペプシ・コーラにはアルコールや人を酔わせるものが含まれているリスクがあると言われたが、これは本当か。

【答え】

本件はアズハルのファトワ（宗教的見解または宗教令）協議会まで届けられており、その結果、アズハルは以下のようなファトワを出した。

ペプシ・コーラやコカ・コーラに関する質問は、アズハルのファトワ協議会にたくさん寄せられている。質問者は、「この二つの飲料をハラムとするファトワが出された。なぜなら、ペプシ・コーラには豚由来の成分が入っており、一方コカ・コーラには人を酔わせるものが含まれているからだ、という人がいる」と言う。我々（アズハルのファトワ機関）は、保健大臣局による調査結果が出る前に、ファトワは出さないという考えを持っていた。ペプシ・コーラおよびコカ・コーラの製造工場に対する調査により、この二つの飲料にはどちらも人を酔わせるようなものまたはアルコール成分は含まれておらず、また「ペプシン」という豚由来の成分も含まれていないという結果が出た。また、その他の人々の健康を害するものも含まれていない。

これにより、この二つの飲料をハラムにする理由はない。なぜなら、（飲料が）ハラムとなる理由となるのは、人を酔わせ、理性を失わせ、不浄で、健康を損わせるといったものだからである。このようなものは、これらの二

つの飲料からは見つからなかったし、豚由来の成分など不浄なものも見つからなかったと結論付けられた。この調査に従い、この二つの飲料はハラムではないという判断を下した。

我々(カラム)は、この説明が、質問者を満足させ、読者を安心させることを信じている。

5. イバーダート(礼拝・断食)

勤務と礼拝の両立

[Qalam 1952. 12:19]

【質問】

軍に勤務している。始業は7時で、終業は15時である。11:30~12:00が昼食の時間で、zuhur(1日5回あるイスラムの礼拝の時間のうち昼過ぎの礼拝)にあてられる時間は12:20くらいまでである。水、土、日の3日間を除いた全ての日において、私はzuhurの礼拝を完遂することができない。なんとか完遂しようと方法を模索してみたが、失敗してしまった。この問題に対する助言がほしい。

【答え】

我々の考えとしては、(15時の終業後にzuhurの礼拝をおこなうことをすすめる)15時の終業後の時間も、通常まだzuhurの時間の範囲であるため、終業後にzuhurの礼拝をおこなうのでも間に合う。もしあなたが同僚とともに帰宅するために(zuhurの礼拝にあてる)時間が足りないのであれば、彼らに10分ほど待ってもらうようにお願いしてはどうか。軍の福祉部局から宗教にかかわる要望を尊重してもらえるように取り合ってもらってはどうか。

断食月の日中に異教徒に食べ物を売ること

[Qalam 1955. 2:12]

【質問】

断食月の日中にムスリムがムスリムでない他の民族の人たちにご飯や他の食べ物を売ってもよいのか。

【答え】

食べ物をムスリムでない人々に(断食月の日中に)売ることは禁止されていない。断食月には、断食が義務付けられている人も、義務付けられていない人(子ども、月経中または出産後の出血のある女性、病人、航海中の人、妊娠中または授乳中の女性、断食に耐えうるだけの体力のない高齢者、重労働な職に就いている人など。ただし、後で断食月に遂行できなかった断食を遂行する必要がある人たちもこの中に入る)もいる。ムスリム以外の人に断食月の日中に食べ物を売るとは禁止さ

れていないが、ムスリムに売ってはいけない。もし病氣(または、上で挙げられた断食を義務付けられていないムスリム)ではないムスリムに売った食べ物を(彼らが日中に)食べたら、その食べ物はアッシア(神の教えに反する罪を犯したもの)が食べた疑わしいものとなる。

病氣を患っている場合の断食

[Qalam 1952. 9:14]

【質問】

結核のような深刻な病氣を患っている人が、毎年断食月に断食ができず、(断食月に行くことができなかったものを別の月に遂行するなどして)断食の義務を果たすこともできず、万が一断食をしたとしたら彼の病状が悪化するだろう場合、これはどう判断されるか。

【答え】

病氣であることが常態化していて、もし断食を行えば病状を悪化させるだろう人、断食すると決まって病氣をする体質の人、金、鉄、錫、石炭などの鉱山のような過酷な環境で重労働をすることで生計を立てている人、非常に高齢な人または妊娠していたり子どもに授乳をしている女性、つまり断食をすることは可能であるが(それによって問題が生じる可能性が高く)断食するのが難しい人は、断食は義務ではない。(断食ができないムスリムは)その代償を払う義務を負っており、その代償とは貧しい人々に食べ物を与えることであるとすのウラマーも一部いる。

6. おわりに

本稿が取り扱った1950年から1960年の約10年間は、マレー半島では、脱植民地化から近代国家の成立と大きな変化を遂げた時代である。それに伴い、その構成員であったマレー・ムスリムの日常空間にも様々な変化が起こっていただろう。

例えば、近代国家となった(近く脱植民地化を目指していた)マラヤでは、世俗教育的特徴に基づいた公教育制度の整備や普及に伴い、伝統的イスラム教育の軽視や、それに伴うマレーコミュニティの道徳観念の揺らぎや乱れに対する危機感が持たれていた。この当時のマレー・ムスリムの道徳心や信仰心の低下や風紀の乱れなどは『カラム』誌においても問題視され、成熟した道徳観念を育てるのは家庭やコミュニティによるイスラム教育(イスラムの教えに基づいた家庭教育)の役割であるとの主張もなされた。

このような社会やイスラムをとりまく環境の変化に伴い、物ごとや行いにおけるハラル(許されるもの)

とハラム(禁止されるもの)の価値判断基準に対する多様な疑問や問題意識をマレー・ムスリム社会の人々は抱いていた。「今、自分たちが置かれている環境において、それはハラルであるのか、ハラムであるのか」に関する判断基準が不明瞭であると感じるものについて、『カラム』誌の「千一問」には多くの質問が投稿された。これらの質問は、特に「お金」「文化」「飲食」「イバーダート(ムスリムが守るべき義務)」の4点に集中した。「お金」に関しては、お金を獲得する手段や方法がハラル(許される)範囲のものであるかに関する質問とともに、「お金」そのものに対するハラル性について問う(獲得するプロセスのハラム性は、それで得たお金そのもののハラム性へと繋がるのか)投稿がなされた。「文化」については、「イスラム的ではない」ものが混淆した文化に関して、それを行うことや行われる場についてどこまでをハラルをみなしうるのかという線引きの問題が投げかけられた。「飲食」や「イバーダート」については、日常的に直面するやむを得ないもの(病気、勤労など)とどう向き合いながらムスリムとしてハラルを実践していくかに質問の多くが関連しているように見受けられる。

近代国家という新しい統治枠組みの中に組み込まれたことにより、社会には様々な変化が生じた。また、

イスラム以外の習慣や文化、ムスリム以外の人々と「交わる」ことが日常的であるマレー・ムスリムの人々が、自らを取り巻く社会の中で、一人のムスリムとしてハラルを実践し続けるための知識や知恵を持つことが求められた。そのような時代の中で、「千一問」における質問と問いを通して、マレー・ムスリムの人々が、「ハラルを実践するとは」ということを改めて理解しようとしていたことが、彼らの投稿から垣間見えるのではないだろうか。

参考文献

- 桃木至朗ほか編(2008)『新版 東南アジアを知る事典』、平凡社。
- 多和田祐司(2012)「イスラームと消費社会：現代マレーシアにおけるハラール認証」『人文研究 大阪市立大学大学院文学研究科紀要』第63巻、pp.69-85。
- 日本イスラム協会ほか編(2002)『新イスラム事典』、平凡社。
- 山本博之(2002)「資料紹介『カラム』」『上智アジア学』第20号、pp. 259-343。